事業等名	飼料穀物備蓄・流通合理化事業のうち飼料穀物備蓄対策	担当部局	畜産局飼料課

（現状・課題）
- 配合飼料の原料である飼料穀物は、そのほとんどを輸入に依存している。
- 濃厚飼料自給率向上の目標を掲げている一方で、畜産物の増産により配合飼料需要量も増加することから、輸入原料の安定確保も重要。
- 海外での悪天候の影響等により、飼料穀物に輸入遅滞等が生じた場合や、国内の災害により飼料工場が被災した場合等に、配合飼料の供給が滞るという課題がある。
- 配合飼料の供給が滞ると、大半の家畜が飼養できなくなり、消費者へ国産畜産物を供給できなくなる。

（現状・課題を示すデータ）
- 家畜のえさは配合飼料に依存しており、特に養鶏・養豚においてはほぼ全てが配合飼料のみで飼養。
- 飼料穀物等の濃厚飼料は88%が輸入。特に配合飼料の主原料であるとうもろこしはほぼ全量が輸入。一方、国内で供給できる飼料穀物は、気候や土地の制約等により限定的であり、自給に取り組みつつも相当程度輸入に依存せざるを得ない状況。
- 飼料穀物の輸入遅滞等が発生した場合、他の輸入先国から調達するのに最低１か月は必要。
- 備蓄の最大活用実績は、東日本大震災時の75万トン。

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム（短期）	アウトカム（中期）	インパクト
R5要求額：1,903の内数 R4：1,750の内数 R3:1,750 R2:1,750 （百万円）	① 配合飼料製造業者等が事業継続計画（BCP）に基づき行う飼料穀物の保管にかかる経費の一部を補助 ② 緊急時の配合飼料の緊急輸送にかかる経費の一部を補助 ③ 配合飼料製造業者等の関係者間の連携体制の強化を図るための協議会開催等にかかる経費を補助	① 備蓄数量 【R3:74万トン（うち国の支援対象相当数量24万トン）】 ・緊急時の原料不足を理由とする製造停止の事例 （R3:事例0） ② 緊急輸送支援回数 【R3: 0回※】 ・工場被災による配合飼料の供給不足の事例 （R3: 事例0） ③ 協議会の開催 【R3:飼料物流に関する検討会（ブロック別６回）、BCP研修会（ブロック別６回）、ブロック代表者による意見交換会（全国１回）】 ・新たなリスクに対応した見直しによる関連企業の危機管理能力の更新 （R3:更新者数16者）	○ 配合飼料製造業者等がBCPに定める備蓄数量を確実に維持しつつ、これまでの備蓄穀物の最大活用実績や国産濃厚飼料の流通状況等を踏まえ国全体としての適切な備蓄水準を確保する。 ○ 配合飼料製造業者によるBCPの見直し 指標①	○ 食料・農業・農村基本計画における畜産物の増産数量目標や濃厚飼料の自給率向上目標に沿って、輸入原料を安定的に確保し配合飼料を継続的に生産する。 指標②	○ 令和12年度における食料・農業・農村基本計画の畜産物の生産数量 指標③

※②は災害等によって緊急輸送が生じた場合に支援

指標①
- ○ 家畜の頭羽数、過去の活用実績や国産濃厚飼料の流通状況等を勘案し、民間の流通在庫を含め、1カ月の輸入量に相当する量として、100万トン
- ○ 毎年度、すべての事業実施主体が見直しを実施

指標②
- ○ 濃厚飼料需要量のうち輸入由来（TDN換算）
  H30 1,714万トン → R12 1,662万トン（97%）
- ○ 配合飼料の生産量
  H30 2,331万トン → R12 2,261万トン（97%）
- [○ 濃厚飼料の自給率 H30 12% → R12 15%]

指標③
- ○ 畜産物の生産数量目標
  生乳：H30 728万トン → R12 780万トン
  肉類：H30 336万トン → R12 358万トン

外部の影響要因
・食料・農業・農村基本計画（飼料穀物の適正備蓄水準確保、畜産物生産数量目標、濃厚飼料自給率目標、農林水産物・食品の輸出目標）